OBだより

京外大能楽部OB会発行

7号

能楽と私

♡陳張公乃♡

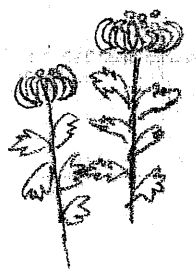
今の私には、能楽部を語る資格など、どこにあるでしょうか。よ便りをいただいた時は、さて、どうしたものかと迷いました。月日の立つのは早いもので、私が外大を卒業しまして、十余年になります。「卒業しました当時、お茶の会などでよく、「仕舞をしていらっしゃるのでは」とよく尋ねられました。その時ほど、「ああ、能楽部に入っていてよかった」と思ったことはありませんでした。

部室でのよいこには、今でも手に取るように憶えてよります。念が近づくたびに、部員一同助け合って一生懸命練習に励んだものでした。

能楽部に入部しまして、かれこれ、藤本さんがお能にとってもくわしく、そして観世会館へ一緒に行きましたりに初めて見るその舞台が何とも言えず、簡素で神聖なのに驚きました。そして見ている人を不思議な世界へと導いて行くすばらしさに、私はすっかりとりこにされました。その時の舞台が"葵上"だったので今でも"葵上"が好きです。

ただあこがれて入部しました私ですから声の出し方など、まったくわからず、皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。でも、橋本先生並びに先輩方のおかげで、私にも謡がうたえるようになり、仕舞も舞わせていただきました。一番初めは、鶴亀そして西王母。西王母の時など先生の男袴をかしていただき、私はうれしくて感激しました。そして東京へ帰郷公演：今思えば心に残る良い思い出ばかりです。

今では、すっかり能楽とは縁のない生活に入ってしまい、とてもさびしい気がします。またいつか、きっともう一度、謡や仕舞のよけいごとをして自分自身の生活に、うるおいを持たせたいと心から願ってやみません。



♡森井使補♡

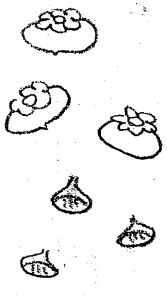
能楽部に在籍した四年間、そして、謡曲と関係の有った六年間、締めて十年間、それは小生の人生にとって、今なお大きな影響力を持っている。仕事に於ては、仕事関係、家庭、友人関係、目下アメリカに於ても為なる、ビジネス活動を行ってよられる松永氏、氏は我々企業グループの良き指導者である。我々は一生涯、相互扶助の精神で有り、先輩でもあり道を歩むであり、一生涯の良き後輩であります。家庭、妻は、部の良き伴侶でありますよう。植田氏、氏は私の親友であり、アドバイザーでもあります。会う事は出来ないまでも、時のたつのも忘れる程、話が会えば花咲く何とやら、部り合う、私の一生涯の友クラブを通じて知り合えた人、私は、「人」という言葉が好きです。ある人の人生訓に次のように書かれています。

「人と言う字をつくづく眺めていると、だれかが他人に支えられているようであり、だれかを支えているようでもある。人は自分一人では何も出来ない。一人で出来たと考えるなら、人とは神がうえた為前である。

どんな事を成すにしても、まずんとは何かという本質をよく理解してみれば自分の生きる道もおのずから開けてゆく。自分を生かしてくれる人と、自分を生かす人に深いきずなが出来上る。

どうでしょうか。

そのきずなを大に背負いませんか。



♡中川妙子(旧姓 広幸)

私が卒業してはや六年、改めて月日の経ったのが早い事を痛感する次第です。

丁度、私が一回生の時、十周年記念で、当時四回生の山下節男先輩、藤井一史先輩によって清経が舞われ、両替町北町にある嘉祥閣の二階の隅で拝見させていただいたあの時の感動が、今こうして思い起こすと新たに甦って来ます。

能の鑑賞は、その時が始めてというわけではなかったのですが、いつも物語を追う事や装束の見事なまでの美しさ、簡素な極限にある能舞台の不思議さ(これは舞台だけではなくて、能そのものの魅力だと思います。)そのようなものばかりに心魅かれていました。ところが、先輩方の舞われた清経には、何にも替えがたい私がこれ以上引き付けられる事はないであろう能を拝見させていただいたような気がしました。

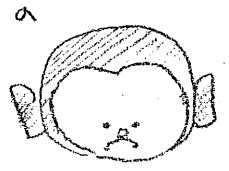
今思えば、夏の合宿で一回生一人、二回生二人、三回生三人、四回生四人と先輩方にも恵まれ、クラブにも能に対しても興味を持ち始めた頃で、毎日懸命に稽古をされ、すべてをうつうつにかけてこられた先輩方の舞台を、そのように感じたのも

不思議はないと思います。
部員が少なくて、外大能どころか、クラブとして成立不可能な所までになり、部員集めに走り回ったり、京の暑い真っ只中を広告取りに、道でぶらぶらと頭が露んだ事もありました。大きな声で笑ったり、悲しくて悲しくて堪えられなく涙を流したり、いろいろな事がありました。クラブというのは、本当に人生の縮図みたいだと思います。出会いがあり別れがあり……。当時顧問をしていただいた、松尾金四郎先生も今では他界されました。私の敬愛すべき方のよひとりでした。私も今、五本とニホンになるわんぱくざかりの息子がふたりいます。やっぱり今でも、大きな声で笑ったり、ろ笑と一緒に涙流したりしています。上のるが「ばあさんってろ笑みたい。大きな声で笑うもの。」て大きな声で笑わないと思っているようです。ゆが息子は。

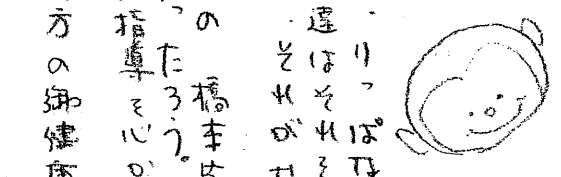
能楽と私

♡大植昌美(旧堰)♡

大学を卒業してもう5年になる。恥ずかしい話だが、その間、一度も大学を訪れたことはないし、在学中にお世話になった能楽部の部室を覗いたこともない。あまり熱心な部員ではなかったし、現在も現役のために一役員ようなどという責任感のあるOBでもない。そんな私の名をこの"OB"だより"に載せて頂くということは、穴があったら入りたい心境だ。
私が能楽部の部室を初めて訪れたのは、大学一年の夏休みを過ぎた頃だった。もうすぐという日のことだった。それまで、一度も"能"というものを見たことがなく、又当時の能楽部に誰が知り合いがいるというわけでもなかったが、高校時代夢中でやっていた演劇の舞台が忘れられなかったのと、未知の世界を覗いてみたいという冒険心でした。私が能楽部の門をたたいた。ていた演劇の裏舞台とはやっぱり違っていたけれど、初めて見た「能」はすばらしく、ずしんと心に響くものがあった。
誰もが思うが如く私もあのをつけて舞ってみたいとったものだが、何よりも児を当時の部員たちがやてくれたのが最大の魅力でそして入部してまもないとは「外大能」で、わけのまま「紅葉狩」を舞わせてもらった。その時から大学4年の外大能」で「附弁慶」の前シテを舞い終るまで、この愛端はきっと橋本先生や他の部員たちが敷いてくれたレールの上を時々めずかに脱線することはあっても、殆ど苦労もなしに歩いてきたに等しい。たった4年間で能や舞をいせてもらえるということは、めぐまれているとしかいえないし、これぞ学生のえもせずに努力のいることなのか、今は"悠力と甘えてきた。かり、能楽を初めて見た時の、感激を忘れることなく自分なりに精一杯打ち込めばよかったとつくづく反省してやまない。私は甘ったれた部員であったけれど、自分なりにも私はあくを恥じながらも私はあくの輝いた他の部員の成長する様をしかと見てきた。
それは能楽部に入部して最大の収穫だったと思っている。大学生活の半分は能楽部でのにそれが卒業する時には後悔はがりが先に立っているというのだからなんと情けない話であろう。
一度この失敗を二度とくり返さぬよう能楽部ごの「台」を教訓に自分なりに一生懸命がんばりたいと思っている。



今年は能楽部創立20周年にあたる。
20年と一口にいっても部員の少ない能楽部にとっては苦しい20年であったろう。私が入部した年は、りっぱな部室がちょうどできあがったばかりで、私達はそれをあたりまえの練習場のように使っていたが、それがなかったら先輩たちの頃はどうだったろう。
そして何よりも20年という歴史の中での橋本先生の御尽力には並々ならぬものがあったろう。
今後とも後輩のため、まらずの良き御指導を心からお願いしたいと思う。
能楽部のますますの発展とOBの皆様方の御健康を御為幸を祈ってペンを置きたい。



♡おめでとう♡



福井玲子様(旧姓小澤、52年卒業)
七月二十四日、俊輔君御誕生



蜂尾みち子様(旧姓森永、52年卒業)
六月十七日、有紀子ちゃん御誕生

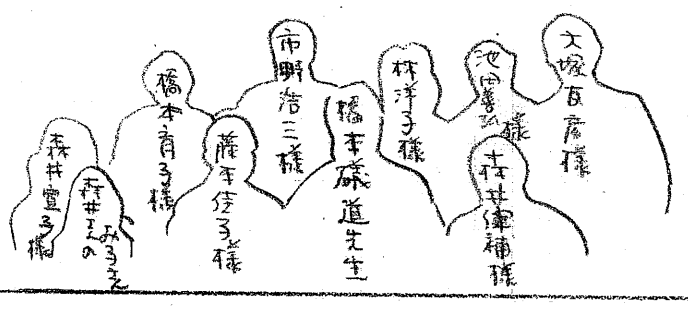
心よりお祝い申し上げます。

（55.7.27. OB総会　於：祇園新ハマムラ）



ようやくさわやかな秋日和の日が続くようになりました。OB会員の皆々様、その後お変り御座ませんか。

御存知の如く本年は能楽部創設二十周年にあたります。これを機に年に一回のOB諸兄の集いを持ち、なお一層のOB会の親睦と交宝をはかりたく皆々様には即に御案内を差し上げました通り第一回のOB会の集いを七月二十七日に京都祇園新ハマムラにて開催致しました。当日は、藤本佳子、森井健補、宣多文喜、池田善弘、市野浩三、大塚友彦、林洋子（旧姓尾）諸氏と御主夫婦が集まり、大竜隆子君が三ヶ月の赤ちゃん連れで飛び入りも有り（高谷直美君は出席の予定でしたが急にお休みの為熱にて欠席）久しぶりの再会で話がはずみ、終止なごやかで有意義な半日を過ごしました。席上二十周年記念に現役部員に贈る記念品は検討を要する事が多く次回に持ち越しとなりました。

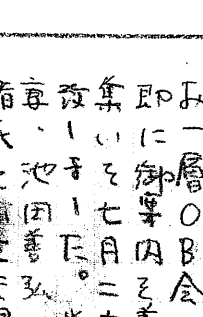


尚、来年度は八月九日に神戸にてポートピア見学と共に行う事を約束して御座います。次回の集いには是非とも御予定おき頂きますよう御参加下さいます様お願い申し上げます。

橋本康道

現役だより

♡五十五年京都学生能楽連盟委員長に外大の奥田圭一君（三回生）が選ばれました。



二十周年記念外大能のお知らせ

12月6日（土曜日）12時半より、河村能舞台にて弁慶物が行われます。

能楽は素謡は、「田村」「三輪」「小袖曽我」「経正」「東方朔」「殺生石」「班女」「屋島」

OBより大塚友彦さんが独吟「菱上島」を直美が舞囃子「高砂」を舞います。

尚OBの連吟は「菊慈童」です。皆様振って御出演下さい。

又、会終了後岡山公園いふじにて打ち上げコンパが有るそうです。宜しく御参加下さい。

何れ現役部員の方から、番組と共に御案内すると存じます。



住所変更のお知らせ

お願い

五十五年度OB会費をお送り下さいますよう、よろしくお願い致します。お手数ながら左記へとお送り下さいますれば幸甚に存じます。

「OBだより」二十周年記念号（すてき）を皆様のお手元にお送りすることができましたが、これも、お忙しい中を原稿をお送り下さいました皆様のお陰と、誌上にてお礼申し上げます。